

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	沼崎雅之
視察地	東京都板橋区
視察年月日	令和8年1月27日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
<p>●区立こども動物園、区立こども動物園高島平分園</p> <p>東京都板橋区では、基礎自治体としては珍しく動物園とその分園を運営しており、大型動物や珍獣はいない小さな動物園であるが、地域に密着した活動を展開して半世紀にわたり地域住民に愛されていると聞く。</p> <p>旭川市においても観光の核として旭山動物園があるが、さらなる活用を検討する上で市民向けの活動で参考になることはないか、また中心市街地活性化策として分園設置は検討できないか、以上の問題意識から視察先に選んだ。</p> <p>もっとも印象的だったのは、「こども動物クラブ」の活動である。これは、区内の小学校3年生から中学生を対象に募集している登録制のクラブで、動物園で実施している飼育作業、エサづくりや畜舎清掃、来客対応などの業務をこども達が放課後や休日に行うものである。動物とのふれあいを通じた情操教育のほか、サードプレイスとしての機能も担っており、不登校の子が学校に行くようになったという話も伺った。こども動物クラブでの活動を通じて動物の飼育に関心をもって、高校卒業後にスタッフになった方もいた。また、区内の障害者施設や高齢者施設を対象に動物が訪問する「出張ふれあい動物園」も実施するなど、福祉分野での機能を動物園が担っていることは大いに参考にすべきと感じた。</p> <p>そのほか、近隣の農家から規格外品の野菜をエサとして寄付してもらったり、動物園から排出される馬糞を堆肥化するなど循環型社会への貢献にも努めている。</p> <p>公益財団法人ハーモニセンターを指定管理者として、一般会計で運営されている点が旭川市と異なるが、本園と分園を距離の離れた場所で2か所運営することに特段の困難は感じていないとのことであった。旭川市の看板である旭山動物園の分園を中心市街地に設置し、福祉や教育の機能を担うことを真剣に検討してはどうかと、今後の議会活動で訴えてまいりたい。中心市街地活性化策としても大きな示唆が得られた。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	沼崎雅之
視察地	群馬県太田市
視察年月日	令和8年1月28日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
<p>●オープンハウスアリーナ太田</p> <p>旭川市の花咲総合体育館建て替えに関連して、先行事例を視察する一貫で群馬県太田市のオープンハウスアリーナ太田を選んだ。理由は、人口規模が22万人でありまた近隣に大都市がないなど旭川市に比較的条件が近いこと、2023年完成と新しいこと、5000人規模の最大収容人員が花咲に建築予定のアリーナと近いことなどである。</p> <p>オープンハウスアリーナ太田はバスケットボールチーム「群馬クレインサンダース」の拠点としてBリーグの条件（収容人数、VIP設備、映像・音響設備など）を満たすよう設計された。アリーナ中央の昇降可能な映像設備など最新の設備を備え、バスケットボール以外にも格闘技のプロ興行などで多くの集客ができていると聞いた。避難所拠点としての機能も備えており、600人程度の避難者の受け入れと、インフラ切断時にも3日間程度は施設機能を維持可能とのこと。</p> <p>建設に当たり総事業費は約82億円。うち一般財源は2.5億円で、内閣府の地方創生拠点整備交付金、群馬県の市町村有競技別拠点スポーツ施設整備事業補助金、企業版ふるさと納税（16社）のほか合併特例債を活用したとのこと。さらに、オープンハウスディベロップメントの創業者が太田市出身という縁で年額1000万円のネーミングライツ取得等で支援しているとも聞いた。</p> <p>旭川市において民設民営の非保有方式で進める予定であり資金調達方法については必ずしも参考になるというわけではなかったが、想定している規模とほぼ同じアリーナを実際に視察することで用途など具体的なイメージがつかめた。代表質問等に反映し、より良いアリーナづくりを議会からも提案して行くうえで大きな示唆が得られた。</p>	

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	沼崎雅之
視察地	山形県南陽市
視察年月日	令和8年1月29日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
<p>●南陽市役所ラーメン課プロジェクト</p> <p>南陽市では2016年度からラーメン化プロジェクトと題して、行政組織上の課ではないが有志のプロジェクトチームとしてラーメン課を組織して地元名物の赤湯ラーメン普及に取り組み、近年では各種マスコミにも取り上げられるなど大きく注目されている。</p> <p>旭川市においても旭川ラーメンが名物であり観光資源となっているが、いわゆるご当地ラーメンが全国に存在する中でいかにして地元のラーメンを全国にアピールするか参考になると考え視察先に選んだ。</p> <p>ラーメン課プロジェクトの核になる南陽市みらい戦略課から受けた説明では、そもそも山形県はラーメン消費量が多く来客を出前ラーメンでもてなす習慣もあり、ラーメン店も多く、特に南陽市は人口当たりのラーメン店が多いとのこと。そうした背景もあつてか、市長が中心となって南陽市の何を全国に売り出したいか中高生を対象に自由記載のアンケートを実施したところラーメンが一番多い回答であり、全国にラーメンをアピールする戦略を考え始めたとのこと。2016年にまず始めたこととして近隣（山形市）の東北芸術工科大学の学生と連携し、学生の取材と作成したイラスト入りの「ラーメンマップ」を作成するとともにその絵が入った横断幕をJRの駅に掲げるなど、若者主体の戦略であった。その後、カードラリーやフォトコンテストを実施するなど精力的に活動の幅を広げていったが特に大きな推進力となったのが人気漫画『ラーメン大好き小泉さん』とのコラボレーションであり、市長が著者に直談判して実現したとのこと。カードラリーの景品や関連グッズ、地元運送会社と連携したラッピングトラックに当該キャラクターのイラストが入ることで全国的な人気となり、現在は外国人向けパンフレットの作成や外国人モニターツアーも実施しているとのこと。カードラリーの参加者は6割が市外・県外の人であるなど、経済効果も大きいとのこと。</p> <p>2024年には喜多方市に「ラーメン課」が発足するなど波及効果も大きい。横浜ラーメ</p>	

ン博物館にも市内店舗が出店して人気を博している。

以上、実際に伺い詳細に説明を受けたことで、市内の若者主体でスタートしたボトムアップ型の企画であり、そこに市長の強力なリーダーシップと人気コンテンツとのコラボが加わって大きな成功を収めていることが明らかになった。ラーメンに限定せず、同様の企画は旭川市でも検討に値すると感じた。今後の議会質問等に活かしたい。